

社会福祉施設における「QOL の理想と現実」

——児童福祉施設を中心として——

遠 藤 和 佳 子*

Issues on “Quality of Life” in Social Welfare Institutions

Wakako Endo

Abstract : As we make much of “well-being”, we begin to improve the quality of social welfare services. Users of social welfare services are stressing on improving “Quality of Life”, in order to pursue their own happiness. In this paper, I will survey issues on “Quality of Life” in social welfare institutions.

Key words : 生活の質 QOL (Quality of Life) 社会福祉施設 social welfare institutions ウェルビーイング well-being 質問紙調査 questionnaire survey

はじめに

社会福祉の理念が「ウェルフェア」から「ウェルビーイング」へ転回するとともに、社会福祉サービスでは現在、「質」の充実こそが重要視されるようになってきている。社会福祉施設にあっても、利用者が一人の尊厳ある人間として自らの幸福を追求していくことができるよう、可能な限りサポートすることが施設のスタッフに求められ始めている。

まさに QOL (生活の質) の向上も、そうした動向において主張されるようになってきている。社会福祉施設の利用者に対して画一的にサービスを行っていくのではなく、個性豊かな一人の人間として利用者に接し、彼らのニーズに適切に応え QOL の向上をはかること、それは現在、社会福祉施設が目向けるべき重要な課題の一つとなっているのだ。

本稿では、社会福祉施設における「QOL の理想と現実」のギャップを質問紙調査のデータ

を用いて考察し、そこから見えてくる QOL をめぐる社会福祉施設の諸問題を明らかにし、QOL の向上にどのような課題があるのかを浮き彫りにしたいと考えている。そこで以下ではまず「調査の概要」について述べ、「質問紙調査の単純集計結果」について提示する。その後、施設の職員が「QOL の理想と現実」をどのように考えているのかを、因子分析と分散分析といった統計手法を用いて考察する。さらに児童福祉施設に的をしぼり、「QOL の理想と現実」のギャップについてより詳細に考察を展開をしたいと思う。

1 調査の概要

施設ごとの職員が利用者の QOL について、どのように考えているのか。その理想と現実を明らかにするため、いくつかの施設に対して質問紙調査を実施した。本稿は、このデータを用いて考察をすすめていくが、まず「調査の概要」を以下に記しておく。

*関西福祉科学大学社会福祉学部 講師

【調査期間】2003(平成15)年2月27日(木)～3月15日(土)

【調査法】各施設職員への郵送調査

【調査対象となった施設種別】

- ①特別養護老人ホーム
- ②養護老人ホーム
- ③軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)
- ④知的障害者授産施設
- ⑤知的障害者更生施設
- ⑥身体障害者療護施設
- ⑦身体障害者授産施設
- ⑧身体障害者更生施設
- ⑨児童養護施設
- ⑩児童自立支援施設
- ⑪肢体不自由児施設
- ⑫知的障害児施設
- ⑬その他

【調査対象者】各施設職員

【回答者数】550名。その内訳は①特別養護老人ホーム125人(23.5%)、②養護老人ホーム35人(6.6%)、③軽費老人ホーム1人(0.2%)、④知的障害者授産施設29人(5.4%)、⑤知的障害者更生施設70人(13.1%)、⑥身体障害者療護施設83人(15.6%)、⑦身体障害者授産施設3人(0.6%)、⑧身体障害者更生施設19人(3.6%)、⑨児童養護施設73人(13.7%)、⑩児童自立支援施設26人(4.9%)、⑪肢体不自由児施設25人(4.7%)、⑫知的障害児施設41人(7.7%)、⑬その他3人(0.6%)それ以外に欠損値データが17名分ある。

2 「QOLの理想と現実」をめぐる

質問紙調査の単純集計結果

次にここでは、質問紙調査の単純集計結果を示しておく。

1) QOLの現状について

QOLの現状については、「あなたの施設で

は、利用者の生活で、以下のことはどの程度実際になされているとお考えですか」という質問を行った。

(1) 様々な行事を自分で選択して参加できる

有効回答数(532)の内、「全くできていない」が8.6%、「あまりできていない」が31.4%、「まあまあできている」が50.0%、「非常にできている」が10.0%であった。

(2) 個室を持つ

有効回答数(537)の内、「全くできていない」が41.2%、「あまりできていない」が38.0%、「まあまあできている」が13.6%、「非常にできている」が7.3%であった。

(3) 街へ出かけて社会資源を活用する

有効回答数(531)の内、「全くできていない」が9.8%、「あまりできていない」が48.2%、「まあまあできている」が35.8%、「非常にできている」が6.2%であった。

(4) 館内全体にBGMが流れている

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が42.9%、「あまりできていない」が25.2%、「まあまあできている」が19.1%、「非常にできている」が12.8%であった。

(5) 食事時間を自由に選択できる

有効回答数(536)の内、「全くできていない」が54.3%、「あまりできていない」が32.1%、「まあまあできている」が12.1%、「非常にできている」が1.5%であった。

(6) 私物の持ち込みができる

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が1.9%、「あまりできていない」が16.9%、「まあまあできている」が55.5%、「非常にできている」が25.8%であった。

(7) 自由に面会ができる

有効回答数(541)の内、「全くできていない」が1.7%、「あまりできていない」が4.8%、「まあまあできている」が26.2%、「非常にできている」が67.3%であった。

(8) いつもおしゃれな服装を身につけている

有効回答数(536)の内、「全くできていな

い」が4.5%、「あまりできていない」が37.5%、「まあまあできている」が51.5%、「非常にできている」が6.5%であった。

(9) 食事の適温提供ができる

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が2.2%、「あまりできていない」が13.0%、「まあまあできている」が55.3%、「非常にできている」が29.5%であった。

(10) 家族や友人ができる

有効回答数(540)の内、「全くできていない」が0.6%、「あまりできていない」が12.2%、「まあまあできている」が52.0%、「非常にできている」が35.2%であった。

(11) はっきりした将来の見通しを持つことができる

有効回答数(528)の内、「全くできていない」が10.0%、「あまりできていない」が52.7%、「まあまあできている」が33.7%、「非常にできている」が3.6%であった。

(12) 生活の目標を達成する

有効回答数(533)の内、「全くできていない」が3.4%、「あまりできていない」が43.7%、「まあまあできている」が49.7%、「非常にできている」が3.2%であった。

(13) 居室のインテリアに配慮されている

有効回答数(535)の内、「全くできていない」が10.8%、「あまりできていない」が54.0%、「まあまあできている」が32.1%、「非常にできている」が3.0%であった。

(14) 外出が自由にできる

有効回答数(537)の内、「全くできていない」が16.8%、「あまりできていない」が27.2%、「まあまあできている」が38.2%、「非常にできている」が17.9%であった。

(15) 健康上適切な食事が提供されている

有効回答数(540)の内、「全くできていない」が0.2%、「あまりできていない」が3.7%、「まあまあできている」が38.0%、「非常にできている」が58.1%であった。

(16) 利用者との関係に配慮している

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が0.0%、「あまりできていない」が5.8%、「まあまあできている」が55.3%、「非常にできている」が39.0%であった。

(17) 性に対して配慮されている

有効回答数(534)の内、「全くできていない」が3.9%、「あまりできていない」が29.8%、「まあまあできている」が48.9%、「非常にできている」が17.4%であった。

(18) 職員は、利用者に対して接し方・態度・話し方について配慮している

有効回答数(540)の内、「全くできていない」が0.2%、「あまりできていない」が14.3%、「まあまあできている」が72.4%、「非常にできている」が13.1%であった。

(19) 利用者の意思を尊重する

有効回答数(541)の内、「全くできていない」が0.6%、「あまりできていない」が13.7%、「まあまあできている」が69.3%、「非常にできている」が16.5%であった。

(20) 個別のケアを受けている

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が1.1%、「あまりできていない」が19.7%、「まあまあできている」が64.2%、「非常にできている」が15.0%であった。

(21) 利用者が余暇活動を楽しめる

有効回答数(538)の内、「全くできていない」が0.9%、「あまりできていない」が26.4%、「まあまあできている」が61.5%、「非常にできている」が11.2%であった。

(22) 施設全体の雰囲気が明るい

有効回答数(538)の内、「全くできていない」が0.2%、「あまりできていない」が11.0%、「まあまあできている」が63.2%、「非常にできている」が25.7%であった。

(23) 利用者の不満・苦情を受け入れられる

有効回答数(538)の内、「全くできていない」が0.9%、「あまりできていない」が10.4%、「まあまあできている」が65.1%、「非常にできている」が23.6%であった。

(24) 教養や知識を学ぶ機会がある

有効回答数(536)の内、「全くできていない」が3.4%、「あまりできていない」が41.0%、「まあまあできている」が45.9%、「非常にできている」が9.7%であった。

(25) 自分のお金で嗜好品や趣味のものが買える

有効回答数(537)の内、「全くできていない」が3.7%、「あまりできていない」が12.1%、「まあまあできている」が52.1%、「非常にできている」が32.0%であった。

(26) 施設内では花や緑に配慮している

有効回答数(540)の内、「全くできていない」が1.1%、「あまりできていない」が17.6%、「まあまあできている」が51.7%、「非常にできている」が29.6%であった。

(27) 清潔な服装を身につけられる

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が0.2%、「あまりできていない」が7.6%、「まあまあできている」が58.1%、「非常にできている」が34.1%であった。

(28) ボランティアの訪問がある

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が2.2%、「あまりできていない」が15.0%、「まあまあできている」が54.9%、「非常にできている」が27.8%であった。

(29) プライバシーが守られている

有効回答数(541)の内、「全くできていない」が1.8%、「あまりできていない」が33.8%、「まあまあできている」が51.8%、「非常にできている」が12.6%であった。

(30) 職員と気軽におしゃべりができる

有効回答数(538)の内、「全くできていない」が0.2%、「あまりできていない」が5.2%、「まあまあできている」が49.8%、「非常にできている」が44.8%であった。

(31) 利用者同士の人間関係に配慮している

有効回答数(541)の内、「全くできていない」が0.0%、「あまりできていない」が6.3%、「まあまあできている」が68.0%、「非常に

できている」が25.7%であった。

(32) 個人の趣味を楽しむことができる

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が1.7%、「あまりできていない」が25.0%、「まあまあできている」が58.4%、「非常にできている」が14.8%であった。

(33) 毎日お風呂に入れる

有効回答数(535)の内、「全くできていない」が29.2%、「あまりできていない」が31.0%、「まあまあできている」が13.3%、「非常にできている」が26.5%であった。

(34) 好き嫌いを配慮の上で、おいしい食事が食べられる

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が3.5%、「あまりできていない」が29.9%、「まあまあできている」が51.8%、「非常にできている」が14.8%であった。

(35) テレビ・ラジオ・新聞・図書など自由に聞いたり見たりできる

有効回答数(540)の内、「全くできていない」が1.7%、「あまりできていない」が15.2%、「まあまあできている」が43.3%、「非常にできている」が39.8%であった。

(36) 自分で着る服を選択できる

有効回答数(538)の内、「全くできていない」が2.2%、「あまりできていない」が16.4%、「まあまあできている」が49.3%、「非常にできている」が32.2%であった。

(37) 食事メニューを自由に選択できる機会がある

有効回答数(539)の内、「全くできていない」が18.7%、「あまりできていない」が31.5%、「まあまあできている」が37.3%、「非常にできている」が12.4%であった。

(38) 施設外の友人と自由に交流ができる

有効回答数(538)の内、「全くできていない」が12.6%、「あまりできていない」が28.4%、「まあまあできている」が35.5%、「非常にできている」が23.4%であった。

(39) 利用者の権利宣言が明確にされている

有効回答数（533）の内、「全くできていない」が5.3%、「あまりできていない」が32.3%、「まあまあできている」が44.8%、「非常にできている」が17.6%であった。

(40) 利用者の信仰・信心・宗教を尊重する

有効回答数（531）の内、「全くできていない」が4.1%、「あまりできていない」が16.8%、「まあまあできている」が49.9%、「非常にできている」が29.2%であった。

2) QOLの理想について

QOLの理想については、「利用者の生活にとって、以下のことはどの程度大切だとお考えですか」という質問を行った。

(1) 様々な行事を自分で選択して参加できる

有効回答数（539）の内、「全く大切ではない」が0.2%、「あまり大切ではない」が7.8%、「まあまあ大切である」が40.4%、「とても大切である」が51.6%であった。

(2) 個室を持つ

有効回答数（539）の内、「全く大切ではない」が0.6%、「あまり大切ではない」が8.7%、「まあまあ大切である」が46.9%、「とても大切である」が43.8%であった。

(3) 街へ出かけて社会資源を活用する

有効回答数（539）の内、「全く大切ではない」が0.2%、「あまり大切ではない」が4.1%、「まあまあ大切である」が38.8%、「とても大切である」が57.0%であった。

(4) 館内全体にBGMが流れている

有効回答数（540）の内、「全く大切ではない」が8.9%、「あまり大切ではない」が33.9%、「まあまあ大切である」が43.5%、「とても大切である」が13.7%であった。

(5) 食事時間を自由に選択できる

有効回答数（540）の内、「全く大切ではない」が2.8%、「あまり大切ではない」が23.9%、「まあまあ大切である」が48.9%、「とても大切である」が24.4%であった。

(6) 私物の持ち込みができる

有効回答数（543）の内、「全く大切ではない」が0.4%、「あまり大切ではない」が7.9%、「まあまあ大切である」が50.8%、「とても大切である」が40.9%であった。

(7) 自由に面会ができる

有効回答数（543）の内、「全く大切ではない」が0.7%、「あまり大切ではない」が3.1%、「まあまあ大切である」が23.8%、「とても大切である」が72.4%であった。

(8) いつもおしゃれな服装を身につけている

有効回答数（541）の内、「全く大切ではない」が0.7%、「あまり大切ではない」が9.8%、「まあまあ大切である」が46.0%、「とても大切である」が43.4%であった。

(9) 食事の適温提供ができる

有効回答数（543）の内、「全く大切ではない」が0.2%、「あまり大切ではない」が0.2%、「まあまあ大切である」が18.4%、「とても大切である」が81.2%であった。

(10) 家族や友人ができる

有効回答数（542）の内、「全く大切ではない」が0.4%、「あまり大切ではない」が1.1%、「まあまあ大切である」が15.7%、「とても大切である」が82.8%であった。

(11) はっきりした将来の見通しを持つことができる

有効回答数（540）の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が1.9%、「まあまあ大切である」が27.8%、「とても大切である」が70.4%であった。

(12) 生活の目標を達成する

有効回答数（543）の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が1.5%、「まあまあ大切である」が29.7%、「とても大切である」が68.9%であった。

(13) 居室のインテリアに配慮されている

有効回答数（543）の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が7.0%、「まあまあ大切である」が56.4%、「とても大切である」が36.6%であった。

(14) 外出が自由にできる

有効回答数(539)の内、「全く大切ではない」が1.9%、「あまり大切ではない」が7.8%、「まあまあ大切である」が38.6%、「とても大切である」が51.8%であった。

(15) 健康上適切な食事が提供されている

有効回答数(543)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.2%、「まあまあ大切である」が8.5%、「とても大切である」が91.3%であった。

(16) 利用者と家族の關係に配慮している

有効回答数(541)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.2%、「まあまあ大切である」が10.9%、「とても大切である」が88.9%であった。

(17) 性に対して配慮されている

有効回答数(540)の内、「全く大切ではない」が0.2%、「あまり大切ではない」が1.7%、「まあまあ大切である」が27.8%、「とても大切である」が70.4%であった。

(18) 職員は、利用者に対して接し方・態度・話し方について配慮している

有効回答数(543)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.2%、「まあまあ大切である」が0.7%、「とても大切である」が92.8%であった。

(19) 利用者の意思を尊重する

有効回答数(542)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.6%、「まあまあ大切である」が11.6%、「とても大切である」が87.8%であった。

(20) 個別的なケアを受けている

有効回答数(540)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.2%、「まあまあ大切である」が16.9%、「とても大切である」が83.0%であった。

(21) 利用者が余暇活動を楽しめる

有効回答数(542)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.4%、「まあまあ大切である」が26.2%、「とても

大切である」が73.4%であった。

(22) 施設全体の雰囲気が明るい

有効回答数(542)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.0%、「まあまあ大切である」が10.5%、「とても大切である」が89.5%であった。

(23) 利用者の不満・苦情を受け入れられる

有効回答数(542)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.7%、「まあまあ大切である」が9.6%、「とても大切である」が89.7%であった。

(24) 教養や知識を学ぶ機会がある

有効回答数(542)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が2.4%、「まあまあ大切である」が41.7%、「とても大切である」が55.9%であった。

(25) 自分のお金で嗜好品や趣味のものが買える

有効回答数(541)の内、「全く大切ではない」が0.9%、「あまり大切ではない」が3.5%、「まあまあ大切である」が37.9%、「とても大切である」が57.7%であった。

(26) 施設内では花や緑に配慮している

有効回答数(542)の内、「全く大切ではない」が0.2%、「あまり大切ではない」が1.1%、「まあまあ大切である」が42.8%、「とても大切である」が55.9%であった。

(27) 清潔な服装を身につけられる

有効回答数(542)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.4%、「まあまあ大切である」が15.7%、「とても大切である」が83.9%であった。

(28) ボランティアの訪問がある

有効回答数(541)の内、「全く大切ではない」が0.4%、「あまり大切ではない」が4.8%、「まあまあ大切である」が46.8%、「とても大切である」が48.1%であった。

(29) プライバシーが守られている

有効回答数(542)の内、「全く大切ではない」が0.0%、「あまり大切ではない」が0.4

％、「まあまあ大切である」が10.3％、「とても大切である」が89.3％であった。

(30) 職員と気軽におしゃべりができる

有効回答数(540)の内、「全く大切ではない」が0.0％、「あまり大切ではない」が0.2％、「まあまあ大切である」が20.4％、「とても大切である」が79.4％であった。

(31) 利用者同士の間関係に配慮している

有効回答数(538)の内、「全く大切ではない」が0.0％、「あまり大切ではない」が0.0％、「まあまあ大切である」が15.8％、「とても大切である」が84.2％であった。

(32) 個人の趣味を楽しむことができる

有効回答数(538)の内、「全く大切ではない」が0.2％、「あまり大切ではない」が0.4％、「まあまあ大切である」が29.9％、「とても大切である」が69.5％であった。

(33) 毎日お風呂に入れる

有効回答数(538)の内、「全く大切ではない」が0.2％、「あまり大切ではない」が4.3％、「まあまあ大切である」が44.4％、「とても大切である」が51.1％であった。

(34) 好き嫌いを配慮の上で、おいしい食事が食べられる

有効回答数(537)の内、「全く大切ではない」が0.2％、「あまり大切ではない」が5.6％、「まあまあ大切である」が34.1％、「とても大切である」が60.1％であった。

(35) テレビ・ラジオ・新聞・図書など自由に聞いたり見たりできる

有効回答数(539)の内、「全く大切ではない」が0.2％、「あまり大切ではない」が2.2％、「まあまあ大切である」が30.6％、「とても大切である」が67.0％であった。

(36) 自分で着る服を選択できる

有効回答数(539)の内、「全く大切ではない」が0.2％、「あまり大切ではない」が3.0％、「まあまあ大切である」が33.8％、「とても大切である」が63.1％であった。

(37) 食事メニューを自由に選択できる機会が

ある

有効回答数(538)の内、「全く大切ではない」が0.6％、「あまり大切ではない」が5.6％、「まあまあ大切である」が40.1％、「とても大切である」が53.7％であった。

(38) 施設外の友人と自由に交流ができる

有効回答数(537)の内、「全く大切ではない」が1.9％、「あまり大切ではない」が3.2％、「まあまあ大切である」が35.2％、「とても大切である」が59.8％であった。

(39) 利用者の権利宣言が明確にされている

有効回答数(535)の内、「全く大切ではない」が0.2％、「あまり大切ではない」が1.5％、「まあまあ大切である」が19.8％、「とても大切である」が78.5％であった。

(40) 利用者の信仰・信心・宗教を尊重する

有効回答数(538)の内、「全く大切ではない」が0.2％、「あまり大切ではない」が3.7％、「まあまあ大切である」が31.4％、「とても大切である」が64.7％であった。

3 「QOLの理想と現実」をめぐる各施設の違い ——因子分析と分散分析を用いた分析——

各福祉施設では、「QOLの理想と現実」はどのようなものとしてとらえられているのだろうか。以下では、このことを前述の質問紙調査のデータから浮き彫りにしていく。

1) 「QOLの現実」をめぐる各施設の違い

そこでまず、「現実になされていると考えられている」各施設のQOLのあり方に関連したデータについて因子分析を用いて分析していくことにしたい。

その際、主因子法によりQOLの因子を抽出し、因子の解釈のしやすさから2因子解を適当と考えた。バリマックス回転後の各質問項目の因子負荷量は、表1に示してある通りである(共通性の値が0.16未満の項目については除外してある)。

表1 「QOLの現実」をめぐる因子分析

因子名	人間関係・心理	自由	
	1	2	共通性
Q 1-18	0.642	0.076	0.418
Q 1-12	0.620	0.078	0.391
Q 1-19	0.612	0.385	0.523
Q 1-16	0.593	0.240	0.410
Q 1-31	0.591	0.139	0.368
Q 1-23	0.579	0.284	0.416
Q 1-20	0.558	0.245	0.371
Q 1-27	0.558	0.050	0.314
Q 1-22	0.542	0.207	0.337
Q 1-29	0.532	0.325	0.389
Q 1-30	0.532	0.161	0.309
Q 1-24	0.531	0.104	0.293
Q 1-11	0.515	0.154	0.289
Q 1-17	0.510	0.077	0.266
Q 1-13	0.477	0.241	0.285
Q 1-39	0.460	0.285	0.292
Q 1-26	0.432	0.122	0.202
Q 1-21	0.540	0.400	0.451
Q 1-32	0.397	0.566	0.477
Q 1-8	0.349	0.444	0.319
Q 1-40	0.316	0.459	0.310
Q 1-3	0.276	0.471	0.298
Q 1-36	0.260	0.644	0.482
Q 1-35	0.191	0.643	0.450
Q 1-25	0.169	0.706	0.526
Q 1-38	0.167	0.737	0.571
Q 1-1	0.165	0.619	0.410
Q 1-5	0.149	0.443	0.218
Q 1-6	0.118	0.578	0.348
Q 1-14	0.115	0.727	0.542
Q 1-37	0.093	0.406	0.174
Q 1-7	0.048	0.531	0.284
固有値	6.116	5.616	
分散寄与率	19.112	17.549	

この表1において因子負荷量の絶対値0.40以上を示した質問諸項目の内容を参考に、各因子を解釈していくことにしよう。

表1を見ると、第1因子に対しては、質問項目18「職員は、利用者に対して接し方・態度・話し方について配慮している」、質問項目12「生活の目標を達成する」、質問項目19「利用者の意思を尊重する」、質問項目16「利用者と家族の関係に配慮する」、質問項目31「利用者同士の人間関係に配慮する」、質問項目23「利用者の不満・苦情を受け入れられる」、質問項目20「個別的なケアを受けている」、質問項目27「清潔な服装を身につけられる」、質問項目22「施設全体の雰囲気が明るい」、質問項目29「プライバシーが守られている」、質問項目30「職員と気楽におしゃべりができる」、質問項目24「教養や知識を学ぶ機会がある」、質問項目11「はっきりした将来の見通しを持つことができる」、質問項目17「性に対して配慮されている」、質問項目13「居室のインテリアに配慮されている」、質問項目39「利用者の権利宣言が明確にされている」、質問項目26「施設内では花や緑に配慮している」がプラスの負荷を示していることが分かる。これらの項目は共通して、利用者を取りまく人間関係に対する配慮や、利用者の気持ちに対する配慮を示す項目であることから、「人間関係・心理」因子と解釈することができよう。

次に第2因子に対しては、質問項目32「個人の趣味を楽しむことができる」、質問項目8「いつもおしゃれな服装を身につけている」、質問項目40「利用者の信仰・信心・宗教を尊重する」、質問項目3「街に出かけて社会資源を活用する」、質問項目36「自分で着る服を選択する」、質問項目35「テレビ・ラジオ・新聞・図書など自由に聞いたり見たりできる」、質問項目25「自分のお金で嗜好品や趣味のものが買える」、質問項目38「施設外の友人と自由に交流できる」、質問項目1「様々な行事を自分で選択し参加できる」、質問項目5「食事時間を自由に選択できる」、質問項目6「私物の持ち込みができる」、質問項目14「外出が自由にできる」、質問項目37「食事のメニューを自由

に選択できる機会がある」、質問項目7「自由に面会ができる」がプラスの負荷を示していた。これらの項目は共通して、利用者が自由に行動・活動できるかどうかを示しており、そのことから「自由」因子と解釈した。

では、これら因子について各施設で違いが見られるのだろうか。これを知るため、先ほどの因子分析によって算出した因子得点を変数化し、これを従属変数としつつ、施設を独立変数とした分散分析を行なった。これによって各施設は、「人間関係・心理」因子と「自由」因

子、それぞれに対してどの程度、関わっているのかを見ることが出来る。因子得点の「平均値」が最大のところは、最も当該因子に関わっている施設であり、逆に因子得点の「平均値」が最低のところは、当該因子と最も関わりのない施設ということになる。この結果については表2を見てもらいたい。分散分析の結果は、どちらの因子についても有意であった。

これを見ると、「人間関係・心理」因子の因子得点平均値が高い施設は「児童自立支援施設」(0.813)であり、平均値が低い施設は「知

表2 「QOLの現実」をめぐる施設ごとの違い（分散分析結果）

		数	平均値	標準偏差	標準誤差	最大値	最小値
人間関係・心理	特別養護老人ホーム	109	-0.095	0.935	0.090	-2.493	2.395
	養護老人ホーム	28	0.040	0.754	0.143	-1.530	1.851
	軽費老人ホーム	1	0.047	.	.	0.047	0.047
	知的障害者授産施設	26	-0.255	0.799	0.157	-2.152	1.122
	知的障害者更生施設	59	-0.113	0.852	0.111	-2.526	1.744
	身体障害者療護施設	68	-0.214	0.761	0.092	-2.259	1.243
	身体障害者授産施設	3	0.011	0.769	0.444	-0.433	0.899
	身体障害者更生施設	16	-0.076	1.153	0.288	-1.790	2.181
	児童養護施設	62	0.210	1.075	0.136	-2.995	2.364
	児童自立支援施設	24	0.813	0.954	0.195	-0.531	2.634
	肢体不自由児施設	19	0.103	0.695	0.159	-1.141	1.364
	知的障害児施設	31	0.160	1.086	0.195	-3.309	1.889
	その他	3	0.192	1.224	0.707	-1.145	1.258
	合計	449	0.004	0.936	0.044	-3.309	2.634
自由	特別養護老人ホーム	109	-0.047	0.614	0.059	-1.247	1.249
	養護老人ホーム	28	0.598	0.488	0.092	-0.193	1.754
	軽費老人ホーム	1	1.403	.	.	1.403	1.403
	知的障害者授産施設	26	0.046	1.022	0.200	-1.885	1.519
	知的障害者更生施設	59	-0.103	0.650	0.085	-1.417	1.192
	身体障害者療護施設	68	0.589	0.765	0.093	-2.203	1.910
	身体障害者授産施設	3	0.881	0.072	0.042	0.798	0.929
	身体障害者更生施設	16	0.636	0.314	0.078	-0.211	1.163
	児童養護施設	62	0.391	0.738	0.094	-1.147	1.836
	児童自立支援施設	24	-1.959	0.646	0.132	-2.915	-0.261
	肢体不自由児施設	19	-1.129	0.638	0.146	-2.563	0.138
	知的障害児施設	31	-0.432	0.659	0.118	-2.105	0.850
	その他	3	-1.469	1.770	1.022	-3.384	0.106
	合計	449	-0.002	0.935	0.044	-3.384	1.910
ANOVA			平方和	自由度	分散	F値	有意性
人間関係・心理	Between Groups		26.392	12	2.199	2.618	0.002
	Within Groups		366.266	436	0.840		
	Total		392.658	448			
自由	Between Groups		183.361	12	15.280	32.032	0.000
	Within Groups		207.983	436	0.477		
	Total		391.343	448			

的障害者授産施設」(-0.255)、「身体障害者療護施設」(-0.214)であることが分かる。

それに対して「自由」因子の因子得点平均値が高い施設は「身体障害者授産施設」(0.881)、「身体障害者更生施設」(0.636)、「身体障害者療護施設」(0.589)であり、平均値が低い施設は「児童自立支援施設」(-1.959)、「肢体不自由児施設」(-1.129)であることが分かる。

たとえば「児童自立支援施設」にあつては、利用者の心理や人間関係に対するケアが非常に重要な位置を占めており、その一方で利用者の自由は厳しく制限されている。このことを考えてみても、この分析結果はかなり納得のいくものだと言える。

2) 「QOL の理想」をめぐる各施設の違い

次に、現実になされているか否かに関わりなく、「重要だと考えられている」各施設の QOL のあり方に関連したデータについて因子分析を用いて分析する。

その際やはり、主因子法により QOL の因子を抽出し2因子解を適当と考えた。バリマックス回転後の各質問項目の因子負荷量は、表3に示してある(共通性の値が0.16未満の項目については除外してある)。

この表3において因子負荷量の絶対値0.40以上を示した質問諸項目の内容を参考に、各因子を解釈していく。

表3を見ると、第1因子に対しては、質問項目14「外出が自由にできる」、質問項目38「施設外の友人と自由に交流できる」、質問項目25「自分のお金で嗜好品や趣味のものが買える」、質問項目36「自分で着る服を選択する」、質問項目35「テレビ・ラジオ・新聞・図書など自由に聞いたり見たりできる」、質問項目6「私物の持ち込みができる」、質問項目7「自由に面会ができる」、質問項目8「いつもおしゃれな服装を身につけている」、質問項目37「食事のメニューを自由に選択できる機会がある」、質問項目1「様々な行事を自分で選択し参加で

表3 「QOL の理想」をめぐる因子分析

因子名	自由	人間関係・心理	
	1	2	共通性
Q 2-14	0.781	0.022	0.610
Q 2-38	0.772	0.124	0.612
Q 2-25	0.677	0.248	0.520
Q 2-36	0.656	0.279	0.508
Q 2-35	0.654	0.230	0.481
Q 2-6	0.647	0.095	0.427
Q 2-7	0.645	0.065	0.420
Q 2-8	0.604	0.150	0.387
Q 2-37	0.589	0.267	0.418
Q 2-1	0.587	0.163	0.372
Q 2-5	0.556	0.067	0.314
Q 2-32	0.534	0.429	0.470
Q 2-10	0.509	0.160	0.284
Q 2-2	0.439	0.174	0.223
Q 2-40	0.437	0.450	0.394
Q 2-21	0.426	0.497	0.429
Q 2-3	0.414	0.176	0.203
Q 2-13	0.405	0.361	0.295
Q 2-39	0.401	0.406	0.325
Q 2-29	0.342	0.441	0.311
Q 2-23	0.310	0.464	0.311
Q 2-28	0.270	0.400	0.233
Q 2-20	0.249	0.444	0.259
Q 2-27	0.199	0.566	0.360
Q 2-30	0.198	0.472	0.262
Q 2-24	0.174	0.594	0.383
Q 2-26	0.167	0.508	0.286
Q 2-31	0.139	0.471	0.241
Q 2-22	0.128	0.506	0.272
Q 2-16	0.111	0.548	0.313
Q 2-17	0.093	0.495	0.254
Q 2-18	0.092	0.416	0.181
Q 2-15	0.053	0.457	0.212
Q 2-11	0.044	0.418	0.176
Q 2-12	-0.018	0.438	0.192
固有値	6.884	5.055	
分散寄与率	19.669	14.443	

きる」、質問項目5「食事時間を自由に選択できる」、質問項目32「個人の趣味を楽しむことができる」、質問項目10「家族や友人が訪問する」、質問項目2「個室を持つ」、質問項目40「利用者の信仰・信心・宗教を尊重する」、質問項目21「利用者が余暇活動を楽しめる」、質問項目3「街に出かけて社会資源を活用する」、質問項目13「居室のインテリアに配慮されている」がプラスの負荷を示していた。これらの項目は共通して、利用者が自由に行動・活動できるかどうかを示しており、そのことから「自由」因子と解釈した。

次に第2因子に対しては、質問項目29「プライバシーが守られている」、質問項目23「利用者の不満・苦情を受け入れられる」、質問項目28「ボランティアの訪問がある」、質問項目20「個別的なケアをしている」、質問項目27「清潔な服装を身につけられる」、質問項目30「職員と気軽にしゃべりができる」、質問項目24「教養や知識を学ぶ機会がある」、質問項目26「施設内では花や緑に配慮している」、質問項目31「利用者同士の人間関係に配慮している」、質問項目22「施設全体の雰囲気が明るい」、質問項目16「利用者と家族の関係に配慮している」、質問項目17「性に対して配慮されている」、質問項目18「職員は、利用者に対して接し方・態度・話し方について配慮している」、質問項目15「健康上適切な食事が提供されている」、質問項目11「はっきりした将来の見通しを持つことができる」、質問項目12「生活の目標を達成する」がプラスの負荷を示していることが分かる。これらの項目は共通して、利用者を取りまく人間関係に対する配慮や、利用者の気持ちに対する配慮を示す項目であることから、「人間関係・心理」因子と解釈することができよう。

以上、「QOL の理想」についても「QOL の現実」と同様の因子を抽出できたことが分かるだろう。そこで、これら因子について各施設で違いが見られるのか、これを知るため、やは

り、先ほどの因子分析によって算出した因子得点を変数化し、これを従属変数としつつ、施設を独立変数とした分散分析を行なった。この結果については表4を見てもらいたい。分散分析の結果は、どちらの因子についても有意であった。

これを見ると、「人間関係・心理」因子の因子得点平均値が高い施設は「児童自立支援施設」(0.916)であり、平均値が低い施設は「身体障害者授産施設」(-1.663)、「養護老人ホーム」(-0.472)であることが分かる。

それに対して「自由」因子の因子得点平均値が高い施設は「軽費老人ホーム」(0.912)、「身体障害者授産施設」(0.546)であり、平均値が低い施設は「児童自立支援施設」(-2.456)、「肢体不自由児施設」(-0.666)であった。

これを先ほどの「QOL の現実」の分散分析結果と比較してみよう。たとえば「QOL の現実」では「人間関係・心理」因子の因子得点平均値が低かった「知的障害者授産施設」が、「QOL の理想」では比較的高い値を示していることが見てとれる。これは理想としては大切だと考えているものの、実際にはまだ十分に達成できていない QOL 因子がどれなのかを示している。「知的障害者授産施設」では、まさに「人間関係・心理」因子に関わる QOL がこれに相当しているのだ。

もちろん逆もある。たとえば「QOL の現実」では「自由」因子の因子得点平均値が高かった「身体障害者更生施設」が、「QOL の理想」では比較的低い値を示している。これは、理想としてそれほどの必要性を感じていないにも関わらず、実際には行われていると考えられているものを示している。「身体障害者更生施設」では、「自由」因子に関わる QOL がこれに相当している。

このように各福祉施設では、「QOL の理想と現実」の間で、多かれ少なかれギャップが存在している。実はこうしたギャップにこそ、各福祉施設が目に向けていくべき QOL の問題点が

表4 「QOLの理想」をめぐる施設ごとの違い（分散分析結果）

		数	平均値	標準偏差	標準誤差	最大値	最小値
人間関係・心理	特別養護老人ホーム	117	-0.001	0.749	0.069	-3.002	1.055
	養護老人ホーム	29	-0.472	1.095	0.203	-3.032	0.728
	軽費老人ホーム	1	0.453	.	.	0.453	0.453
	知的障害者授産施設	25	-0.027	0.690	0.138	-1.648	0.986
	知的障害者更生施設	65	0.089	0.797	0.099	-2.722	0.973
	身体障害者療護施設	79	0.023	0.814	0.092	-2.895	0.828
	身体障害者授産施設	3	-1.663	0.433	0.250	-2.034	-1.187
	身体障害者更生施設	18	-0.162	1.046	0.247	-2.718	0.951
	児童養護施設	69	-0.066	0.959	0.115	-2.674	1.156
	児童自立支援施設	23	0.916	0.798	0.166	-1.448	1.817
	肢体不自由児施設	22	0.071	0.905	0.193	-2.331	1.010
	知的障害児施設	38	0.077	0.879	0.143	-2.741	1.251
	その他	3	-2.869	2.422	1.399	-5.248	-0.406
	合計	492	-0.004	0.921	0.042	-5.248	1.817
自由	特別養護老人ホーム	117	0.305	0.575	0.053	-1.115	1.231
	養護老人ホーム	29	0.290	0.582	0.108	-0.779	1.183
	軽費老人ホーム	1	0.912	.	.	0.912	0.912
	知的障害者授産施設	25	0.021	0.653	0.131	-1.321	1.014
	知的障害者更生施設	65	0.278	0.599	0.074	-1.416	1.542
	身体障害者療護施設	79	0.397	0.656	0.074	-2.117	1.190
	身体障害者授産施設	3	0.546	0.408	0.236	0.077	0.826
	身体障害者更生施設	18	0.012	0.622	0.147	-1.129	1.256
	児童養護施設	69	-0.297	0.721	0.087	-1.809	1.014
	児童自立支援施設	23	-2.456	0.982	0.205	-3.990	-0.331
	肢体不自由児施設	22	-0.666	1.383	0.295	-4.336	0.902
	知的障害児施設	38	-0.063	0.748	0.121	-1.936	1.212
	その他	3	-1.576	2.262	1.306	-4.140	0.140
	合計	492	-0.004	0.951	0.043	-4.336	1.542
ANOVA			平方和	自由度	分散	F値	有意性
自由	Between Groups		194.69	12	16.224	31.179	0.000
	Within Groups		249.247	479	0.52		
	Total		443.937	491			
人間関係・心理	Between Groups		60.636	12	5.053	6.808	0.000
	Within Groups		355.504	479	0.742		
	Total		416.14	491			

あらわになっているのではないか。各福祉施設の利用者がそれぞれのウェルビーイングを追求できるためにも、こうした問題点を考えていく必要があると思われる。以下では、こうした「QOLの理想と現実」のギャップについて特に児童福祉施設に焦点を当て、より詳細に考察を展開していくことにしたい。

4 児童福祉施設を中心とした「QOLの理想と現実」のギャップに関する分析

「QOLの理想と現実」のギャップについて考察を展開していくために、以下に「施設ごとにみた『QOLの現実』に関する質問項目の平均値」および「施設ごとにみた『QOLの理想』に関する質問項目の平均値」を表5・6で示しておいた。

ここでは、この表の施設の中でも特に児童福祉施設である「児童養護施設」「児童自立支援

表5 施設ごとにみた「QOLの現実」に関する質問項目の平均値

	Q 1-1	Q 1-2	Q 1-3	Q 1-4	Q 1-5	Q 1-6	Q 1-7	Q 1-8	Q 1-9	Q 1-10	Q 1-11	Q 1-12	Q 1-13	Q 1-14
特別養護老人ホーム	2.68	1.87	2.02	2.64	1.56	2.92	3.84	2.45	3.27	3.39	2.25	2.47	2.19	2.48
養護老人ホーム	3.03	2.19	2.41	1.94	1.59	3.30	3.79	2.64	3.03	2.97	2.32	2.64	2.42	3.45
軽費老人ホーム	3.00	4.00	3.00	2.00	2.00	4.00	4.00	3.00	3.00	4.00	3.00	3.00	3.00	4.00
知的障害者授産施設	2.56	1.52	2.48	1.70	1.89	3.11	3.43	2.43	2.93	2.93	2.25	2.46	2.14	2.39
知的障害者更生施設	2.42	1.84	2.54	1.76	1.62	3.25	3.59	2.62	2.90	3.16	2.10	2.37	2.31	2.29
身体障害者療護施設	2.99	2.16	2.53	2.20	1.66	3.24	3.87	2.77	3.21	3.29	2.16	2.32	2.35	3.00
身体障害者授産施設	1.33	1.00	3.00	1.00	3.00	4.00	4.00	3.00	3.00	3.33	2.00	2.33	2.00	4.00
身体障害者更生施設	2.88	1.59	2.71	1.29	1.76	3.06	3.76	2.59	3.18	3.29	2.53	2.71	1.94	3.35
児童養護施設	2.83	1.79	2.85	1.56	1.80	3.27	3.38	2.97	3.01	3.38	2.57	2.67	2.55	2.99
児童自立支援施設	1.73	1.52	2.04	1.35	1.12	2.19	2.54	1.80	3.50	2.76	2.62	3.04	2.15	1.20
肢体不自由児施設	2.09	1.33	2.08	1.75	1.25	2.70	2.92	2.35	2.67	2.88	2.25	2.50	2.09	1.63
知的障害児施設	2.15	2.05	2.40	2.15	1.45	2.88	3.63	2.61	3.17	3.17	2.46	2.68	2.12	2.12
その他	1.33	1.33	1.67	2.00	1.33	2.33	2.67	3.00	3.33	3.33	2.33	2.67	2.33	2.00
Total	2.61	1.86	2.39	2.01	1.61	3.06	3.59	2.60	3.11	3.22	2.31	2.53	2.27	2.57
	Q 1-15	Q 1-16	Q 1-17	Q 1-18	Q 1-19	Q 1-20	Q 1-21	Q 1-22	Q 1-23	Q 1-24	Q 1-25	Q 1-26	Q 1-27	
特別養護老人ホーム	3.50	3.27	2.88	2.94	3.02	2.82	2.70	3.15	3.18	2.45	3.22	3.20	3.18	
養護老人ホーム	3.44	3.27	2.52	3.03	3.15	3.06	3.24	3.15	3.15	2.91	3.31	3.55	3.18	
軽費老人ホーム	4.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.00	4.00	4.00	4.00	
知的障害者授産施設	3.57	3.32	2.82	2.82	2.82	2.71	2.64	3.04	3.11	2.29	3.39	3.00	3.18	
知的障害者更生施設	3.59	3.36	2.68	3.00	2.90	2.75	2.68	3.15	3.00	2.43	3.09	2.97	3.22	
身体障害者療護施設	3.48	3.27	2.64	2.77	3.11	3.04	2.90	3.15	3.23	2.59	3.43	3.24	3.27	
身体障害者授産施設	3.33	3.67	3.67	3.33	3.33	3.33	3.00	3.00	3.33	2.67	4.00	2.00	3.00	
身体障害者更生施設	3.53	3.53	3.06	3.00	3.17	3.22	3.06	3.17	3.11	2.83	3.39	2.78	2.78	
児童養護施設	3.60	3.48	2.96	3.15	3.16	3.00	3.12	3.21	3.12	2.97	3.33	3.03	3.37	
児童自立支援施設	3.77	3.38	3.28	3.15	2.85	2.96	2.73	2.92	2.96	3.15	1.96	3.35	3.52	
肢体不自由児施設	3.58	3.21	2.65	3.00	2.78	3.00	2.61	3.18	3.14	2.52	1.95	2.74	3.50	
知的障害児施設	3.56	3.41	2.71	3.08	2.85	3.00	2.76	3.20	2.95	2.59	2.80	2.88	3.39	
その他	3.33	3.00	1.67	3.33	3.33	3.00	2.67	3.33	2.67	2.33	2.00	2.33	3.00	
Total	3.54	3.34	2.80	2.98	3.01	2.93	2.83	3.14	3.12	2.63	3.13	3.10	3.26	
	Q 1-28	Q 1-29	Q 1-30	Q 1-31	Q 1-32	Q 1-33	Q 1-34	Q 1-35	Q 1-36	Q 1-37	Q 1-38	Q 1-39	Q 1-40	
特別養護老人ホーム	3.28	2.86	3.31	3.22	2.73	1.57	2.96	3.32	2.85	2.46	2.72	2.74	3.18	
養護老人ホーム	3.21	2.97	3.33	3.21	3.24	2.30	3.06	3.64	3.48	2.61	3.33	2.97	3.36	
軽費老人ホーム	2.00	4.00	3.00	3.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	2.00	4.00	3.00	3.00	
知的障害者授産施設	2.71	2.39	3.39	3.18	2.86	3.63	2.57	3.11	3.43	2.50	2.25	2.54	3.04	
知的障害者更生施設	3.01	2.57	3.47	3.25	2.74	2.63	2.63	3.07	3.16	2.40	2.18	2.57	2.80	
身体障害者療護施設	3.00	2.90	3.30	3.11	3.10	1.43	2.67	3.52	3.32	2.75	3.16	2.86	3.38	
身体障害者授産施設	3.00	2.33	3.67	3.67	3.33	2.33	2.33	3.00	4.00	2.00	3.33	2.33	3.33	
身体障害者更生施設	3.11	2.83	3.22	3.11	3.06	2.39	2.56	3.11	3.56	2.56	3.61	2.83	3.33	
児童養護施設	3.19	2.89	3.54	3.15	3.12	3.34	2.94	3.25	3.45	2.40	3.41	2.94	2.92	
児童自立支援施設	2.96	2.56	3.27	3.42	2.40	3.62	2.54	2.35	1.96	1.76	1.12	2.88	2.88	
肢体不自由児施設	2.83	2.39	3.52	3.09	2.18	2.13	2.26	2.82	2.82	1.63	1.87	2.21	2.50	
知的障害児施設	2.93	2.54	3.51	3.17	2.76	2.93	2.83	2.90	2.95	2.51	2.08	2.79	2.49	
その他	3.00	2.67	3.67	3.00	2.00	2.33	2.67	2.33	2.00	1.33	2.00	2.00	2.00	
Total	3.08	2.75	3.39	3.19	2.86	2.36	2.77	3.20	3.11	2.43	2.70	2.75	3.04	

表6 施設ごとにみた「QOLの理想」に関する質問項目の平均値

	Q 2-1	Q 2-2	Q 2-3	Q 2-4	Q 2-5	Q 2-6	Q 2-7	Q 2-8	Q 2-9	Q 2-10	Q 2-11	Q 2-12	Q 2-13	Q 2-14
特別養護老人ホーム	3.63	3.23	3.36	2.99	3.32	3.47	3.91	3.50	3.89	3.89	3.52	3.58	3.45	3.50
養護老人ホーム	3.48	3.48	3.38	2.79	2.97	3.45	3.73	3.48	3.73	3.85	3.58	3.55	3.18	3.64
軽費老人ホーム	4.00	4.00	4.00	2.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	3.00	4.00
知的障害者授産施設	3.61	3.50	3.67	2.50	2.96	3.32	3.54	3.00	3.82	3.64	3.75	3.71	3.18	3.54
知的障害者更生施設	3.56	3.60	3.75	2.53	3.06	3.50	3.82	3.41	3.84	3.85	3.74	3.63	3.31	3.47
身体障害者療護施設	3.62	3.44	3.76	2.63	3.04	3.35	3.80	3.57	3.84	3.94	3.65	3.70	3.37	3.73
身体障害者授産施設	3.00	3.00	3.00	2.00	3.67	3.67	4.00	3.00	3.67	3.67	3.00	3.00	2.67	4.00
身体障害者更生施設	3.28	3.17	3.78	2.11	2.67	3.22	3.72	3.06	3.50	3.78	3.89	3.83	3.11	3.61
児童養護施設	3.27	3.14	3.53	2.04	2.54	3.21	3.48	3.12	3.64	3.75	3.84	3.77	3.15	3.36
児童自立支援施設	2.42	2.80	2.81	2.32	2.16	2.58	2.73	2.28	3.88	3.44	4.00	4.00	3.15	1.72
肢体不自由児施設	3.17	3.29	3.50	2.83	2.75	3.21	3.29	3.30	3.83	3.54	3.71	3.71	3.29	3.00
知的障害児施設	3.29	3.51	3.65	2.76	2.83	3.29	3.68	3.39	3.93	3.88	3.73	3.68	3.27	3.32
その他	3.00	2.00	2.67	2.33	2.00	2.67	3.33	2.33	3.33	3.00	2.67	3.67	2.67	2.67
Total	3.43	3.33	3.52	2.61	2.94	3.33	3.68	3.32	3.81	3.81	3.68	3.68	3.29	3.40

	Q 2-15	Q 2-16	Q 2-17	Q 2-18	Q 2-19	Q 2-20	Q 2-21	Q 2-22	Q 2-23	Q 2-24	Q 2-25	Q 2-26	Q 2-27
特別養護老人ホーム	3.92	3.93	3.60	3.98	3.94	3.90	3.78	3.93	3.94	3.45	3.58	3.66	3.87
養護老人ホーム	3.82	3.72	3.34	3.82	3.79	3.79	3.73	3.79	3.76	3.36	3.45	3.67	3.79
軽費老人ホーム	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
知的障害者授産施設	3.93	3.93	3.68	3.93	3.89	3.79	3.71	3.93	3.93	3.32	3.71	3.29	3.86
知的障害者更生施設	3.97	3.91	3.70	3.96	3.96	3.90	3.79	3.88	3.96	3.59	3.75	3.46	3.85
身体障害者療護施設	3.88	3.88	3.72	3.95	3.94	3.82	3.83	3.94	3.94	3.59	3.68	3.56	3.86
身体障害者授産施設	4.00	4.00	3.67	3.67	4.00	3.67	3.33	3.33	3.67	3.00	4.00	3.00	3.33
身体障害者更生施設	3.83	3.89	3.72	3.94	4.00	3.78	3.61	3.78	3.89	3.56	3.44	3.39	3.72
児童養護施設	3.90	3.86	3.75	3.84	3.77	3.72	3.66	3.90	3.82	3.58	3.45	3.45	3.79
児童自立支援施設	3.96	3.96	4.00	3.96	3.50	3.81	3.36	3.85	3.77	3.85	2.56	3.81	3.88
肢体不自由児施設	3.88	3.88	3.67	3.96	3.88	3.74	3.71	3.88	4.00	3.58	3.21	3.67	3.79
知的障害児施設	3.98	3.90	3.83	3.93	3.88	3.85	3.80	3.93	3.85	3.60	3.54	3.54	3.88
その他	3.67	3.33	2.33	3.33	3.33	3.33	3.33	3.33	2.67	2.33	2.67	2.00	3.33
Total	3.91	3.89	3.68	3.93	3.87	3.82	3.73	3.89	3.89	3.53	3.52	3.55	3.84

	Q 2-28	Q 2-29	Q 2-30	Q 2-31	Q 2-32	Q 2-33	Q 2-34	Q 2-35	Q 2-36	Q 2-37	Q 2-38	Q 2-39	Q 2-40
特別養護老人ホーム	3.50	3.94	3.89	3.90	3.75	3.12	3.73	3.81	3.65	3.65	3.71	3.78	3.71
養護老人ホーム	3.27	3.82	3.76	3.79	3.64	3.45	3.52	3.73	3.70	3.48	3.70	3.68	3.55
軽費老人ホーム	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
知的障害者授産施設	3.36	3.89	3.78	3.85	3.78	3.81	3.62	3.67	3.63	3.52	3.52	3.74	3.70
知的障害者更生施設	3.50	3.94	3.81	3.88	3.79	3.64	3.61	3.69	3.72	3.61	3.61	3.93	3.67
身体障害者療護施設	3.72	3.96	3.77	3.90	3.78	3.28	3.47	3.72	3.75	3.63	3.82	3.79	3.72
身体障害者授産施設	2.67	4.00	3.00	3.33	3.00	3.67	3.67	3.67	3.67	3.67	3.67	3.67	3.67
身体障害者更生施設	3.39	3.94	3.56	3.61	3.67	3.44	3.44	3.72	3.83	3.33	3.61	3.78	3.83
児童養護施設	3.15	3.85	3.85	3.81	3.66	3.65	3.38	3.51	3.52	3.21	3.55	3.70	3.42
児童自立支援施設	3.24	3.68	3.73	3.92	3.24	3.81	3.12	2.88	2.68	2.72	1.76	3.62	3.58
肢体不自由児施設	3.42	3.83	3.79	3.79	3.50	3.50	3.50	3.46	3.46	3.33	3.25	3.54	3.33
知的障害児施設	3.32	3.83	3.71	3.73	3.68	3.73	3.56	3.66	3.54	3.41	3.43	3.88	3.45
その他	3.00	3.00	3.00	3.00	2.33	3.33	3.00	2.33	2.67	2.33	2.33	3.00	2.00
Total	3.42	3.89	3.79	3.84	3.69	3.46	3.54	3.64	3.60	3.47	3.53	3.76	3.61

遠藤和佳子：社会福祉施設における「QOLの理想と現実」

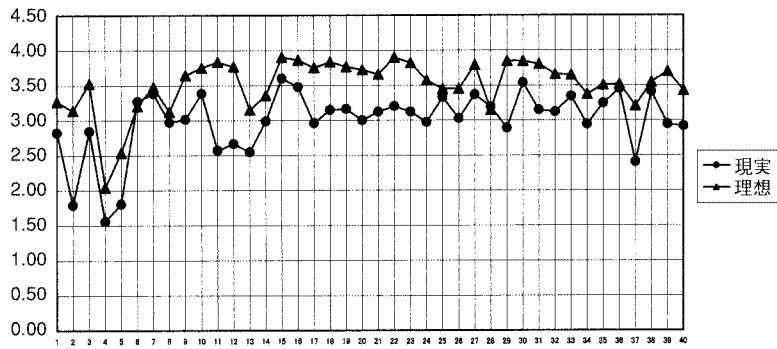


図1 児童養護施設における「QOLの理想と現実」

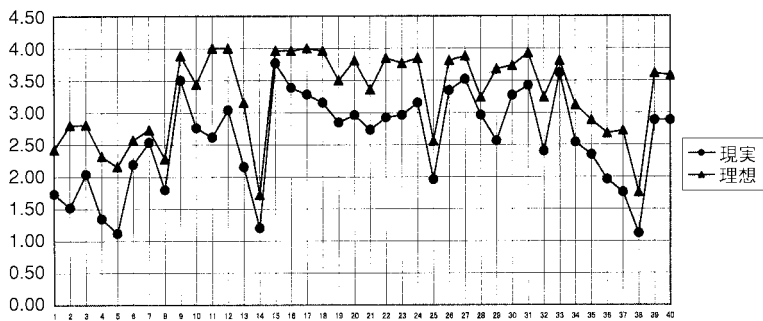


図2 児童自立支援施設における「QOLの理想と現実」

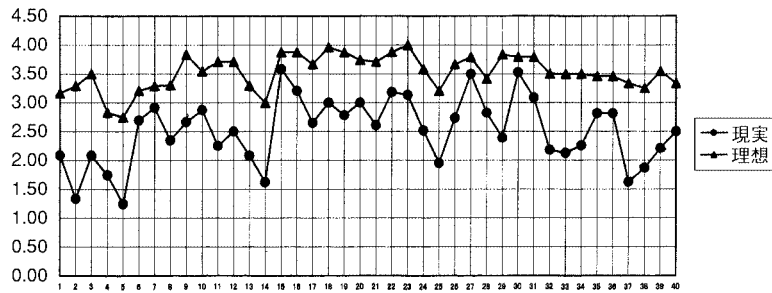


図3 肢体不自由児施設における「QOLの理想と現実」

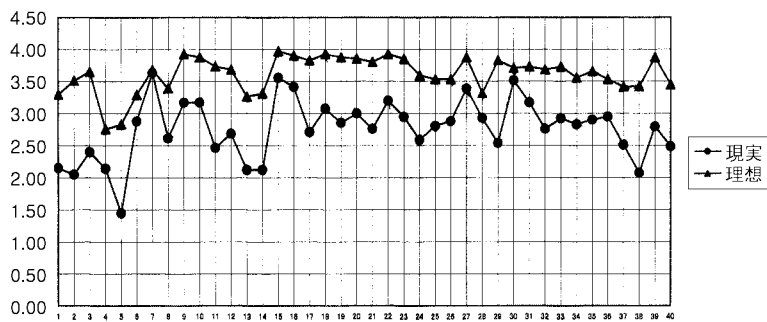


図4 知的障害児施設における「QOLの理想と現実」

施設」「肢体不自由児施設」「知的障害児施設」の4つに的をしぼり、前述の表を折れ線グラフで表現し直すことにした。

図1は、「児童養護施設における『QOLの理想と現実』」の質問項目の平均値を折れ線グラフにしたものである。これを見ると、児童養護施設において「QOLの理想と現実」がほぼ同じパターンのラインを描いていることが分かる。つまり「QOLの現実」に関する質問項目の平均値が高いときには「QOLの理想」に関する質問項目の平均値も高く、「QOLの現実」に関する質問項目の平均値が低いときには「QOLの理想」に関する質問項目の平均値も低くなっているのだ。これは何を意味しているのだろうか。それは、児童養護施設のスタッフが「QOLの理想と現実」を一致させて考えていることを示している。児童養護施設の利用者のQOLを高めるために実際に行われていると考えられていることは理想としても大切だとされており、逆に理想として大切だとされていないことは実際にも行われていないと考えられているのである。

こうしたことは、他の児童福祉施設においても当てはまる。図2から4にも目を向けてみる

と、そのことがよく分かる。「児童自立支援施設における『QOLの理想と現実』」「肢体不自由児施設における『QOLの理想と現実』」「知的障害児施設における『QOLの理想と現実』」のどれを見ても、「QOLの理想と現実」のラインがほぼ同じパターンで描かれていることが見てとれる。このことから、児童福祉施設のスタッフたちは「QOLの理想と現実」について一致させて考えていると判断できよう。

では児童福祉施設における「QOLの理想と現実」には、何のギャップも存在しないと言えるだろうか。早急にそのように結論づけてしまう前に、もう少し詳細に分析してみよう。表7は「QOLの理想」に関する質問項目の平均値から、「QOLの現実」に関する質問項目の平均値を引いた値で、「『QOLの理想と現実』の距離」を示している。この値が他の値と比べて大きいほど、理想と現実のギャップは大きいものであると考えることができる。「QOLの理想と現実」のラインがほぼ同じパターンであっても、理想と現実の間隔が広がっているのなら、それもやはりギャップが大きいと言えるのではないか。

表7では、4つの施設の内、特に「肢体不自由

表7 「QOLの理想と現実」の距離

	Q 1-1	Q 1-2	Q 1-3	Q 1-4	Q 1-5	Q 1-6	Q 1-7	Q 1-8	Q 1-9	Q 1-10	Q 1-11	Q 1-12	Q 1-13	Q 1-14
児童養護施設	0.44	1.35	0.68	0.49	0.73	-0.07	0.10	0.15	0.63	0.37	1.27	1.10	0.60	0.37
児童自立支援施設	0.69	1.28	0.77	0.97	1.04	0.38	0.19	0.48	0.38	0.68	1.38	0.96	1.00	0.52
肢体不自由児施設	1.08	1.96	1.42	1.08	1.50	0.51	0.38	0.96	1.17	0.67	1.46	1.21	1.20	1.38
知的障害児施設	1.14	1.46	1.25	0.61	1.38	0.41	0.05	0.78	0.76	0.71	1.27	1.00	1.15	1.20
	Q 1-15	Q 1-16	Q 1-17	Q 1-18	Q 1-19	Q 1-20	Q 1-21	Q 1-22	Q 1-23	Q 1-24	Q 1-25	Q 1-26	Q 1-27	
児童養護施設	0.30	0.38	0.79	0.68	0.60	0.72	0.53	0.70	0.70	0.60	0.12	0.42	0.42	
児童自立支援施設	0.19	0.58	0.72	0.81	0.65	0.85	0.63	0.92	0.81	0.69	0.60	0.46	0.36	
肢体不自由児施設	0.29	0.67	1.01	0.96	1.09	0.74	1.10	0.69	0.86	1.06	1.25	0.93	0.29	
知的障害児施設	0.41	0.49	1.12	0.85	1.02	0.85	1.05	0.73	0.90	1.01	0.73	0.66	0.49	
	Q 1-28	Q 1-29	Q 1-30	Q 1-31	Q 1-32	Q 1-33	Q 1-34	Q 1-35	Q 1-36	Q 1-37	Q 1-38	Q 1-39	Q 1-40	
児童養護施設	-0.04	0.96	0.31	0.65	0.53	0.31	0.43	0.26	0.07	0.81	0.14	0.75	0.51	
児童自立支援施設	0.28	1.12	0.46	0.50	0.84	0.19	0.58	0.54	0.72	0.96	0.64	0.73	0.69	
肢体不自由児施設	0.59	1.44	0.27	0.70	1.32	1.37	1.24	0.64	0.64	1.71	1.38	1.33	0.83	
知的障害児施設	0.39	1.29	0.20	0.56	0.93	0.80	0.73	0.76	0.59	0.90	1.35	1.08	0.96	

由児施設」において、『QOLの理想と現実』の距離」の値が大きいものとなっていることが見てとれよう。「肢体不自由児施設」において、その値が1.0以上となっているのは、「様々な行事を自分で選択して参加できる」「個室を持つ」「街へ出かけて社会資源を活用する」「館内全体にBGMが流れている」「食事時間を自由に選択できる」「食事の適温提供ができる」「はっきりした将来の見通しを持つことができる」「生活の目標を達成する」「居室のインテリアに配慮されている」「外出が自由にできる」「性に対して配慮されている」「利用者の意思を尊重する」「利用者が余暇活動を楽しめる」「教養や知識を学ぶ機会がある」「自分のお金で嗜好品や趣味のものが買える」「プライバシーが守られている」「個人の趣味を楽しむことができる」「毎日お風呂に入れる」「好き嫌いを配慮の上で、おいしい食事が食べられる」「食事メニューを自由に選択できる機会がある」「施設外の友人と自由に交流ができる」「利用者の権利宣言が明確にされている」であり、かなり多くの項目においてギャップが大きくなっている。

もちろん「肢体不自由児施設」だけにギャップが存在するわけではなく、他の児童福祉施設においてもギャップは存在する。例えば「知的障害児施設」で、理想と現実の距離の値が1.0以上となっているのは、「様々な行事を自分で選択して参加できる」「個室を持つ」「街へ出かけて社会資源を活用する」「食事時間を自由に選択できる」「はっきりした将来の見通しを持つことができる」「生活の目標を達成する」「居室のインテリアに配慮されている」「外出が自由にできる」「性に対して配慮されている」「利用者の意思を尊重する」「利用者が余暇活動を楽しめる」「教養や知識を学ぶ機会がある」「プライバシーが守られている」「施設外の友人と自由に交流ができる」「利用者の権利宣言が明確にされている」である。

また「児童自立支援施設」では「個室を持

つ」「食事時間を自由に選択できる」「はっきりした将来の見通しを持つことができる」「居室のインテリアに配慮されている」「プライバシーが守られている」が、「児童養護施設」では「個室を持つ」「はっきりした将来の見通しを持つことができる」「生活の目標を達成する」が理想と現実の距離が1.0以上となっている。

これらの項目を見ると、施設がそれぞれの種別に応じて抱えている問題が顕著にあらわれていると言えよう。ただ、そればかりではなく、これらの項目の中には「児童養護施設」「児童自立支援施設」「肢体不自由児施設」「知的障害児施設」に共通して、『QOLの理想と現実』の距離」の値が大きいものがあるのだが、その項目こそ実は、児童福祉施設が共通して抱えている問題点を浮き彫りにしていると思われる。

その項目とは何か。『QOLの理想と現実』の距離」の値が共通に1.0以上の項目をひろいだしてみよう。すると「個室を持つ」と「はっきりした将来の見通しを持つことができる」の2つが「児童養護施設」「児童自立支援施設」「肢体不自由児施設」「知的障害児施設」に共通して、1.0以上の値になっていることが見てとれる。

ただこの2つの項目の内、「個室を持つ」はある程度、施設のハード面の問題として解決していくことができる。しかしながら「はっきりした将来の見通しを持つことができる」は、児童福祉施設の機能の本質に関わっているものだと言えないだろうか。子どもたちが将来において明確な展望を持って成長していけること、それは子どもたちの安定した成長の環境を提供する上でなくてはならない事柄であろう。にもかかわらず、「はっきりした将来の見通しを持つことができる」において理想と現実のギャップが大きいものとなってしまっていることにこそ、実は児童福祉施設が現在かかえている問題があらわになっていると考えることができるのではないか。

同様のことは「生活の目標を設定する」とい

う項目でも見てとることができる。この項目でも、「児童養護施設」「肢体不自由児施設」「知的障害児施設」で『「QOLの理想と現実」の距離』の値が、共通して1.0以上となっている(「児童自立支援施設」のみ0.96となっているものの、これも他の数値と比べると相対的に大きいと考えることができる)。だが、この項目も、「はっきりした将来の見通しを持つことができる」と同じく、子どもたちの成長において不可欠の事柄ではないか。人は何の目標もなく生きていくことはできない。もし目標がなくなれば、「生きる意味」を喪失することさえある。そうなってしまえば生きること自体、苦痛になってしまうだろう。

子どもたちが希望を抱きつつ、しっかりと前を向いて明るく歩んでいける環境づくりをしていくために、「はっきりした将来の見通しを持つことができる」や「生活の目標を設定する」といったQOLの項目において、理想と現実のギャップを最小に近づけていく努力を私たちはしていくべきではないだろうか。

おわりに

以上、児童福祉施設を中心としながら、福祉施設における「QOLの理想と現実」について考察を展開してきたが、社会福祉施設におけるQOLの諸問題がある程度あらわにすることができたと思われる。たとえば4つの種別の児童福祉施設において共通して理想と現実の距離が大きいのは、「はっきりした将来の見通しを持つことができる」や「生活の目標を設定する」といった項目であり、それらは児童福祉施設の機能の本質に関わっているものであった。

しかし、そういった諸問題を解決していくた

めには、具体的にどのようにすればよいのだろうか。社会福祉学が実践的な学問であり、現場とのかかわりをつねに持ち続けていく必要がある限り、そうした具体的な政策提言を行なっていく必要があるのではないかと。たとえば児童福祉施設の現場とより一層の濃密な連携をとりつつ、「はっきりした将来の見通しを持つことができ」たり、「生活の目標を設定」したりするための実践的なプログラムづくりが、今後大切になるのではないだろうか。

筆者は現在、児童養護施設においてペアレントトレーニングに焦点を当てたファミリープラザバージョン・プログラムの構築をすすめようとしているが、そうした試みはまさにその一環に位置づけることができよう。本稿が指摘したようなQOLにおける諸問題を真に解決していくための実践的な政策提言、これこそ次の段階で必要になるとと思われる。

参考文献

- 遠藤和佳子(2001)「子ども家庭福祉におけるファミリー・プリザベーションのあり方—アメリカを中心とした考察—」『関西福祉科学大学紀要』第5号、135-149
- 杉本敏夫・渡辺嘉久・袴田俊一・斉藤千鶴・津田耕一・遠藤和佳子編(2003)『利用者のQOLに関する調査』報告書、関西福祉科学大学

付記

本稿は、平成14(2002)年度・平成15(2003)年度、関西福祉科学大学共同研究『臨床福祉学の構築—臨床福祉の実践—』として行われた『利用者のQOLに関する調査』のデータを用いたものである。データの使用を快諾して頂いた共同研究チーム(研究代表者:杉本敏夫教授)に感謝申し上げます。